

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
共同プロジェクト研究
2021年度研究【成果】報告書

研究代表者	所属部局・職名		氏名	
	社会学部・教授		水上 徹男	
研究課題	トランスナショナルな移住者と社会的結束性に関する社会学的研究			
研究組織 (研究代表者・ 研究分担者) 2022年3月現在	所属研究機関・部局・職名		氏名	
	立教大学・社会学部・教授		水上徹男	
	立教大学・社会学部・教授		野呂芳明	
	立教大学・社会学部・准教授		太田麻希子	
	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・特任教授		木下康仁	
研究期間	2019年度 ～ 2021年度			
研究経費※ (上段:支出金額)	2019年度	2020年度	2021年度	総計
	2,105,784	271,656	411,876	2,789,316
(下段:採択金額)	2,370,000	1,840,000	1,750,000	5,960,000
	円	円	円	円

※1円単位で記入

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、第一世代の移住者によるホスト社会への参加および日本からの帰還者による母国での社会活動に関する調査をおこない、移住者による社会的結束性の観点から日本の地域コミュニティの実情を提示することである。バングラデシュやフィリピン・コミュニティなどのエスニック集団を対象として、継続的な調査を実施し、トランスナショナルなネットワークの形成や移住者の社会的結束性を推進あるいは阻害する要因を明らかにする。(1)社会的結束性の概念やフレームの整理、(2)トランスナショナルなネットワークと社会的結束についての分析、(3)多文化化の進展が予測される日本社会の諸課題に対する社会的結束性の観点からの考察を実施して、最終的には政策的な提言につなげることを目指す。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[社会的結束性] [トランスナショナルな移住者] [帰還移民]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**【データ収集活動】**

外国人数などの政府統計を含めた関連文献の収集と整理を進めてきたが、それ以外に以下のインタビュー調査、バングラデシュの主要なイベントに参加、講演会などを実施した。

■ バングラデシュ(ダッカ市)と ZOOM で接続してのオンライン・インタビュー(2021年7月9日、参加者：水上、太田、野呂)

1980年代半ばに来日して滞在後にダッカの日本企業に勤務、その後起業してコンサルタントを行っている K 氏にダッカのオフィスから現地の様子や日本との交流についてお話を伺った。COVID-19の蔓延状況が、ダッカでも厳しいものがあり、ご家族で罹患したこと。また、日本からの訪問者も周囲でほとんど見られず、コロナ禍での国際的な移動の制約が顕著に影響していた。

■ バングラデシュ商工会の会長を訪問してインタビュー(2021年11月19日、埼玉県三郷市、参加者：水上、太田、野呂)

日本で起業、ハラルフード関係のビジネスを展開して、輸入販売業にはじまり、現在ではスーパーマーケットの経営者でもある、B氏のオフィスを訪問して、日本での生活から企業に至る経緯、さらにスーパーマーケットの展開を伺った。現在では、オンラインでのビジネスも実施している。B氏は、三郷市にモスクを建設するなど、バングラデシュ・コミュニティに大きく貢献し、日本国内の主要なバングラデシュ組織の中心人物でもある。また、モスクではバングラデシュ出身者以外にも礼拝に参加している。このスーパーマーケットには、遠方から買い物に来る人も多い、と同時に地元の日本人も増えてきて、ハラルフードに限定しない品揃えとなっている。

■ バングラデシュ独立 50 周年の記念イベントに参加(2021年12月26日、川口市 Kahal Art Gallery、参加者：水上)

バングラデシュのアート・ギャラリーで行われたバングラデシュの独立 50 周年およびムジブル・ラーマン初代大統領生誕 100 周年記念のイベントが行われた(2021年12月26日)。ギャラリーには、「バングラデシュ建国の父」と称されるムジブル・ラーマン氏のさまざまな絵画などが展示されていた。外国人住民支援団体 APFS の元代表である吉成勝男氏と研究代表水上が来賓として招待された。バングラデシュ大使、Kahal Art Gallery オーナー、吉成氏、水上が当日祝辞を述べ、歓談となった。バングラデシュの多くのイベントでは、食事が準備されるが、アルコール類はない。1980年代から日本に定着しているバングラデシュ出身者から比較的最近訪れた人まで含め、約 80 人が集まった。参加者の数名から、コロナ禍におけるバングラデシュ・コミュニティの状況などについての話を伺った。

■ 在日バングラデシュ大使館経済担当公使をお招きして、講演会を行った(2022年3月18日、講演会主催は立教大学グローバル都市研究所で、太田が担当。事務局を12号館会議室に設置、オンラインで配信した。参加者：担当者太田、司会者水上、設置等野呂)

講演タイトル：Japan-Bangladesh Relations: Looking forward to the next 50 years

講師：Syed Nasir Ershad (Economic Minister, Embassy of Bangladesh, Tokyo, Japan)

主催：立教大学グローバル都市研究所

司会：水上徹男(立教大学社会学部教授)

開催方法：オンライン(使用言語：英語)

問い合わせ先：太田麻希子

研究【経過・成果】の概要(つづき)

2022年1月にフィリピン教会の訪問も計画されたが、新型コロナ蔓延状況が悪化したため、直前で中止となった。

【研究成果の発表】

2021年度も例年通りメルボルンの Monash Migration and Inclusion Centre と立教大学グローバル都市研究所、ソウル市立大学共催のシンポジウムを開催する予定であったが、2020年度同様、コロナ禍で実施できなかった。

成果については、2021年6月の東アジア社会学会(East Asian Sociological Association, The New Normal in Post Pandemic, Seoul National University Asia Center, Korea & online meeting)で発表した。Proceedingsとして刊行されている。この時、上記に記載していないが、5月から6月にかけて水上が池袋地区でコロナ禍がエスニック・コミュニティに与えてきた影響に関するインタビューを実施して情報収集にあたっている。今後の学会や刊行物としての発表も計画している。可能になれば、日本の大都市のエスニック・コミュニティの実情や変化について、国際会議の参加や開催を今後も継続する予定である。国内外での調査の実施は、コロナ下で難航したが、これまでの成果については、報告書発行することになった。これまで通り、実証データを蓄積、分析結果に基づき社会的結束の状況を一定程度提示することができたが、コミュニティの再生に向けた指針を示すことを今後も試みてゆく。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

- ① 木下康仁 「M-GTA の集大成とさらなる進化」、特集「M-GTA その進化と展望」、『看護研究』53 (7): 527-549. 2021.

Yumi Aoki, T. Tsuboi, Y. Takaetsu, K. Watanabe, K. Nakayama, Y. Kinoshita, and M. Kayama, "Development and field testing of a decision aid to facilitate shared decision making for adult newly diagnosed with attention-deficit hyperactivity disorder." *Health Expectations*, 1-8, online, DOI:10.1111/hex.13393, Wiley. 2021.

太田麻希子「マニラのスクオッター集落における高学歴女性就労者」『日本都市社会学会年報』(39): 23-39 2021.

Ota, Makiko. "Female Workers in the IT-BPO industry in the Philippines: Possibility and Impossibility for Upward Mobility." *Global Urban Studies* (14) 1-24. 2021.

- ② 水上徹男「オーストラリアの日本人コミュニティの特徴と変貌」吉原・橋本・今野 (編)『グローバル化時代の海外日本人社会』御茶の水書房, pp.199-214, 2021.

B. Cheong, Y. Hao, and T. Mizukami. "The Transformation of Social Ties and Communities in Three Cities." In (eds.) D. Chang, D. Nomiya, and H. Zhang, *Urban Development and Social Change in Megacities in East Asia: Seoul, Tokyo and Shanghai in the Past and Present*. Tokyo: Chuo University Press, pp.147-180, 2021.

- ④ Tetsuo Mizukami, "Chinese in Japanese 'Lockdown'?: The Impact of the COVID-19 State of Emergency upon Migrant Community in Tokyo." Conference, East Asian Sociological Association, *The New Normal in Post Pandemic*, at Samick Hall (# 220), Seoul National University Asia Center, Korea & online meeting, 2021 (June 25).

Tetsuo Mizukami (Session Chairperson), "Sociology of Culture (2)," at The 2nd Congress of East Asian Sociological Association, *Social Transformation in Asia: Before and After Covid-19*, Pukyong National University, Busan, Korea & online meeting. 2021 (29 October).

水上徹男 (招待講演)「東京の中の外国人コミュニティ」『高島平多文化講座 みんなで多文化・多世代型地域づくり』(高島平団地 3-10-1 号棟集会所) 主催: 特定非営利活動法人 ASIAN COMMUNITY TAKASHIMADAIIRA (NPO 法人高島平 ACT)、2021 (11 月 21 日)

Kinoshita, Yasuhito. "The COVID-19 Impact on Learning Programs for the Senior in Japan with a case of Rikkyo Second Stage College (RSSC)"... university-affiliated program, Symposium - *Aging People and Society*, UNESCO Turkish National Commission for UNESCO, Turkey (online).

Kinoshita, Yasuhito, (A Lecture at Overseas University). An Introduction to M-GTA (Modified Grounded Theory Approach), Special Lecture, Higher Education Policy Research Institute, Korea University (高麗大学), South Korea (online).